

# 中期経営計画

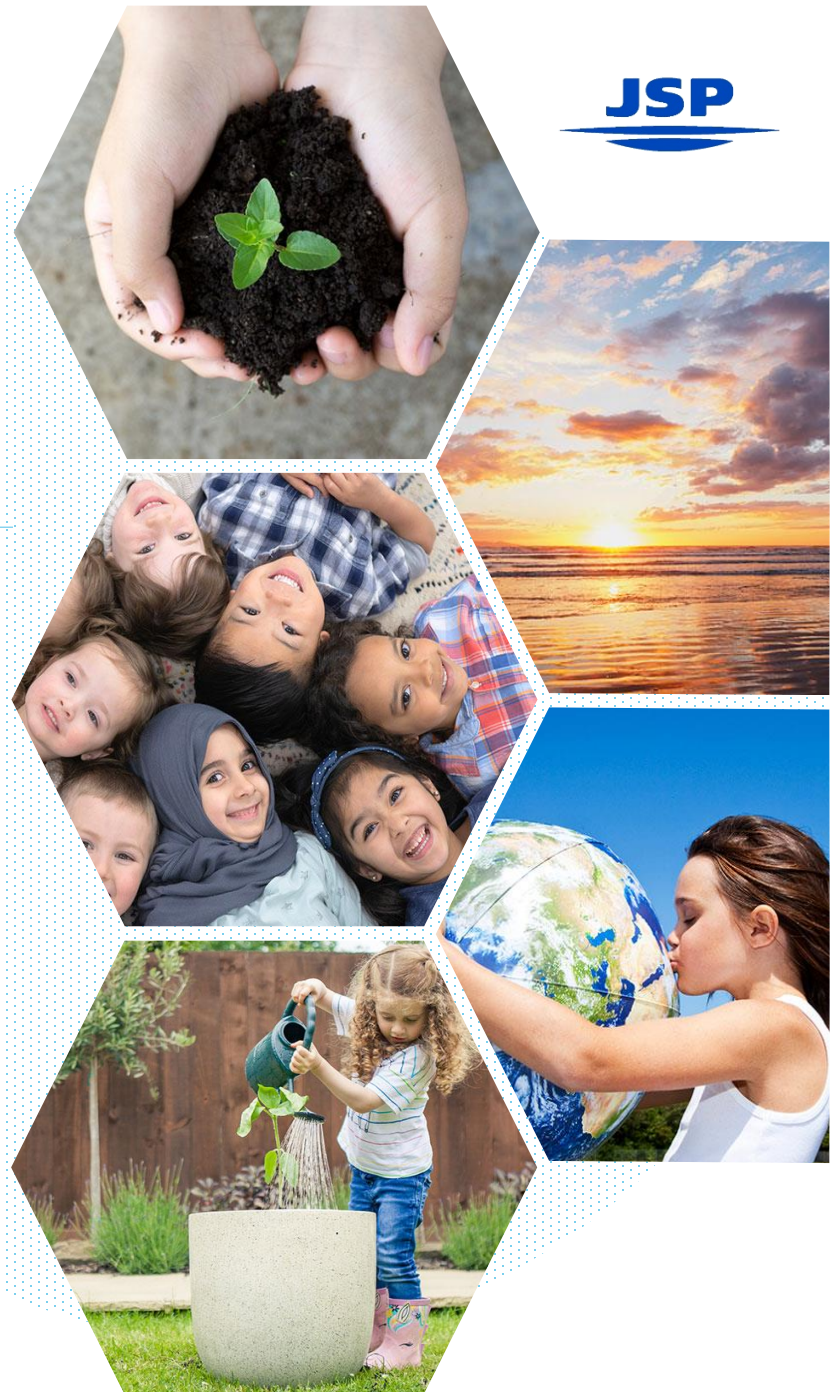
## Change for Growth

▶ 2021–2023

「真のグローバルサプライヤーとして  
社会から必要とされる企業」をめざして

2021年4月

株式会社 JSP



# 「Deeper & Higher 2020」振り返り

## 「Deeper & Higher 2020」概要

本中期経営計画では、前中期経営計画の基本戦略である「差異化戦略」と「成長戦略」は道半ばであることから、これを一歩進めた形で継続する一方で、攻めと守りのバランスのとれた計画とするため、長期ビジョンの基本方針のひとつである「経営基盤の強化」を骨子に加えました。

### 基本方針



差異化戦略の推進



成長戦略の推進



経営基盤の強化

### 4つの成長エンジン

- ミラマットエースは成長の柱に、市場成長は継続
- ミラフォームラムダ、割付断裁はコロナ禍前までは増加傾向
- ピーブロックは、1台当たり重量は増加傾向、自動車生産は停滞
- 新規事業は進捗遅れ、次期中計に期待

### 定量的目標

	2020年度 中計目標	2020年度 実績
売上高	1,380億円	1,027億円
営業利益	110億円	52億円
営業利益率	8.0%	5.1%

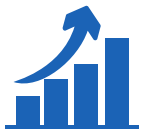
### 2020年度の経済環境

- 上期はコロナの影響大、下期は回復傾向も前年並みには戻らず
- 原料価格は、上期は大幅下落、下期は上昇傾向
- 外出や移動等の制限により、固定費（活動費）が低減
- 脱プラや循環経済への動き

# 長期ビジョン「VISION 2027」

## 「真のグローバルサプライヤーとして社会から必要とされる企業」

### 基本方針



既存事業の  
強化・拡大



事業領域  
の拡大



経営基盤  
の強化

### 進むべき事業領域

#### 4つの成長エンジン



自動車  
関連部品



建築住宅  
断熱材



FPD表面  
保護材



新たな  
事業領域

### 経営方針

Deliver with  
**WOW!**

- 顧客と消費者に感動を届ける
- 株主と地域社会に満足を届ける
- 社員一人ひとりがワクワク感を持って仕事をする

### 定量的ビジョン

	2017年度	VISION 2027
売上高	1,142億円	1,800億円
営業利益	91億円	180億円
営業利益率	8.0%	10%

# Change for Growth—基本コンセプト

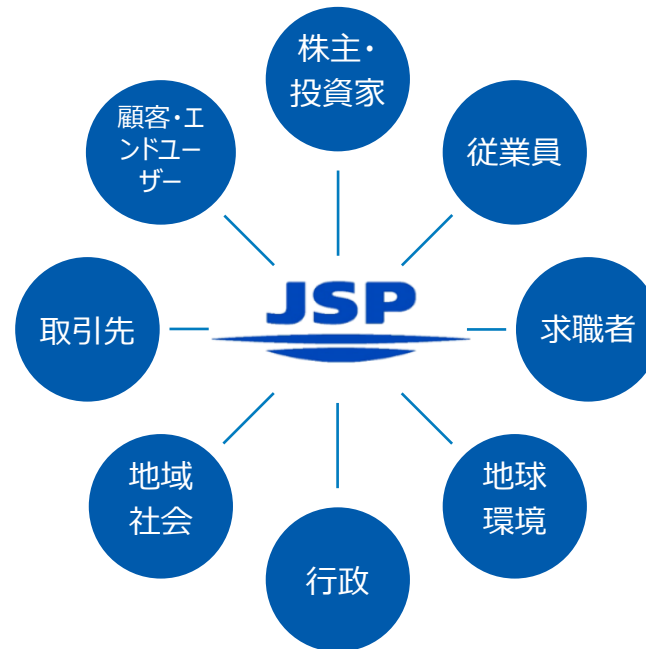
## 基本コンセプト

# 1. 「経済価値だけでなく、顧客や社会の課題解決などの社会的価値へと提供価値を拡大する」

### サステナビリティ経営

#### 社会課題

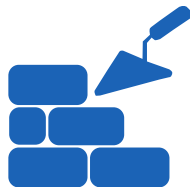
SDGs、パリ協定、循環型経済など、全てのステークホルダーの考え方・行動に影響を及ぼす重要課題



社会的に必要な存在として、理解、信頼、共感を獲得

## 基本コンセプト

## 2.



## 「経営基盤の強化」

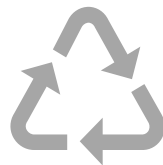
長期ビジョンに基づき、社会から必要とされる企業をめざし、人材育成の強化、安全衛生及び環境保全の企業文化の醸成、コーポレートガバナンス強化に取り組み、経営基盤の強化に努めます。新中計では、新たに「情報システム基盤の強化」と「働きがいのある企業風土の醸成」を加えました。



人材育成の強化



労働安全



環境保全

コーポレート  
ガバナンスの強化情報システム  
基盤の強化働きがいのある企  
業風土の醸成

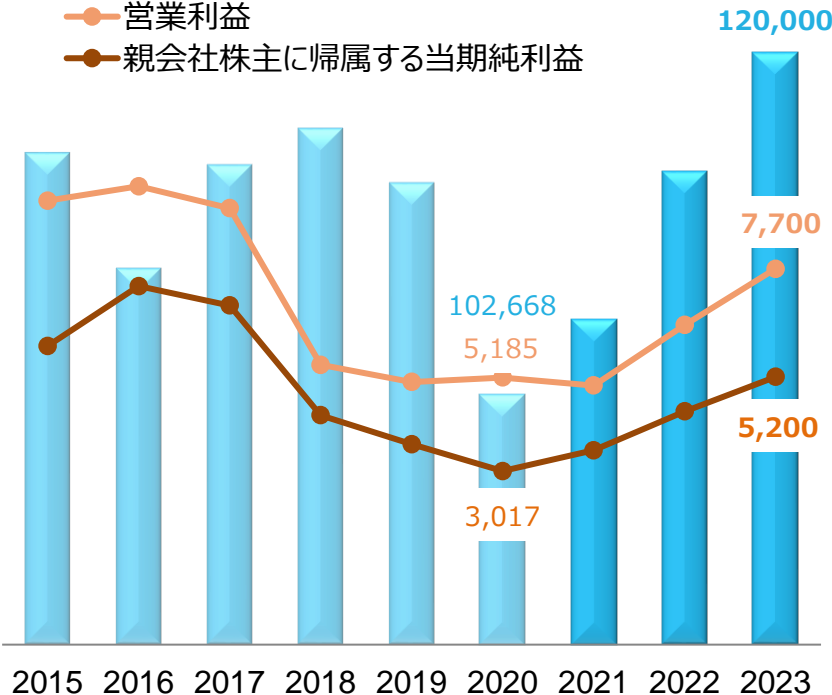
# 定量目標—連結目標

2020年度比

売上 **17%増**

利益 **49%増**

■ 売上高  
● 営業利益  
● 親会社株主に帰属する当期純利益



## 定量目標

単位：百万円

売上高	120,000
営業利益	7,700
営業利益率 (%)	6.4%

## ▼前提条件

原油価格 \$50/バーレル  
為替

- 105円/米ドル
- 125円/ユーロ
- 15円/人民元

## 要約セグメント情報

単位：百万円

	2020年度実績		2023年度中期計画	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
押出事業	37,595	2,576	41,800	2,800
ビーズ事業	59,893	3,550	72,400	6,000
その他	5,179	96	5,800	100
計	102,668	6,223	120,000	8,900
調整額	—	△1,038	—	△1,200
合計	<b>102,668</b>	<b>5,185</b>	<b>120,000</b>	<b>7,700</b>

## 損益計算書計画

単位：百万円

売上高	120,000
営業利益	7,700
経常利益	7,900
親会社株主に帰属する当期純利益	5,200

## 定量目標—4つの成長エンジン

成長戦略では「事業領域の拡大」を含む4つの成長エンジンに経営資源を集中するなど選択と集中による経営の効率化を推進すると共に、攻めと守りのバランスによる安定した持続的な成長をめざします。

### 4つの成長エンジン



#### 自動車関連部品

2019年度数量比

**23%増**

軽量化が追い風  
省エネ・リサイクル要求  
に対応した次世代  
製品供給



#### 建築住宅断熱材

2019年度数量比

**12%増**

省エネ住宅要求の高まり  
高性能断熱材需要拡大



#### FPD表面保護材

2019年度数量比

**20%増**

LCD/有機ELパネル、  
パソコンなど需要増  
海外展開拡大



#### 新たな事業領域

新規事業

**30億円**

M&A案件の推進  
既存有望テーマの  
事業化推進

## 定性目標

- Deliver with WOW!を意識した取り組みを増やし、顧客満足度の向上をめざす
- SDGs への取り組みを収益向上だけでなく社会貢献や働きがいに繋げる
- 戦略的かつ効率的なコーポレート組織をめざす
- リスクアセスメント等を活用し、休業災害の未然防止をめざす



## 変革戦略

### 事業部門

生活資材

省資源化、環境対応型PSPの上市

産業資材

市場調査や情報収集を強化し、既存商材の海外展開を図る

建築土木資材

デジタル化などにより業務効率の改善を図り、割付断裁の効率化、受注処理の合理化、労働負荷の低減、コスト削減を図る

高機能材

省エネ要求に対応した次世代製品の量産化

EPS

環境対応型等の新たなコンセプトの原料提案を目指す

## 変革戦略

### コーポレート部門

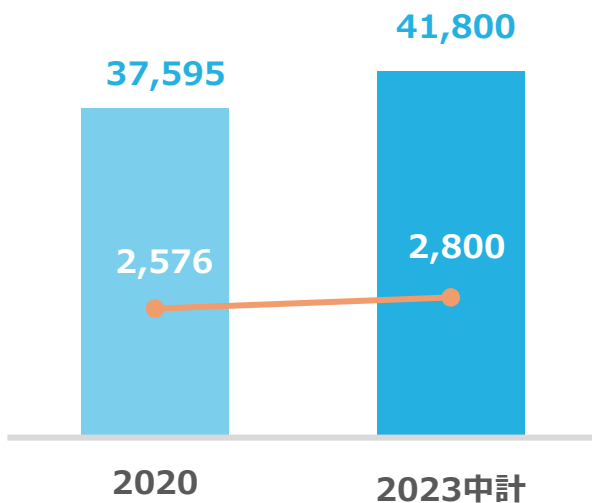
総務	デジタル技術を活用し、ワークフローの可視化・自動化、ペーパーレス化を推進することにより事務業務の生産性向上をめざす
人事	各種人事施策の実行・高齢者雇用安定化を図り、多様なワークライフバランス向上をめざす コーポレート部門の戦略的かつ効率的な組織をめざす
広報IR	SDG s 経営に即した情報発信を社内外に行う
経理財務	電子帳簿保存法に対応し、業務効率改善をめざす
情報システム	基幹業務システムにRPA（ロボットによる業務自動化）ツールの利用による業務自動化を進める
新事業開発	M&A計画の推進
総合技術	温室効果ガス実質排出ゼロに向けた活動計画、目標設定の検討 工場管理からLCAの考え方へのシフト
物流資材	物流業務の標準化とデジタル化

# 押出事業

2020年度比

売上 **11%増**

利益 **9%増**



## 食品容器資材



### 「スチレンペーパー」

- 省資源化製品の提案営業
- 環境対応型PSPの上市

### 「ミラボード」

- 非ディスプレイ分野の市場開拓

## 産業用包装資材



### 「ミラマットエース」

- 海外展開を拡大し増販
- 次世代ミラマットエース等武器に拡販

### 産業資材関連製品群

- 鹿沼地区の次世代生産体制構築
- 自動車、住宅、医療、電子部品関連分野開拓

## 建築土木資材



### 「ミラフォーム」

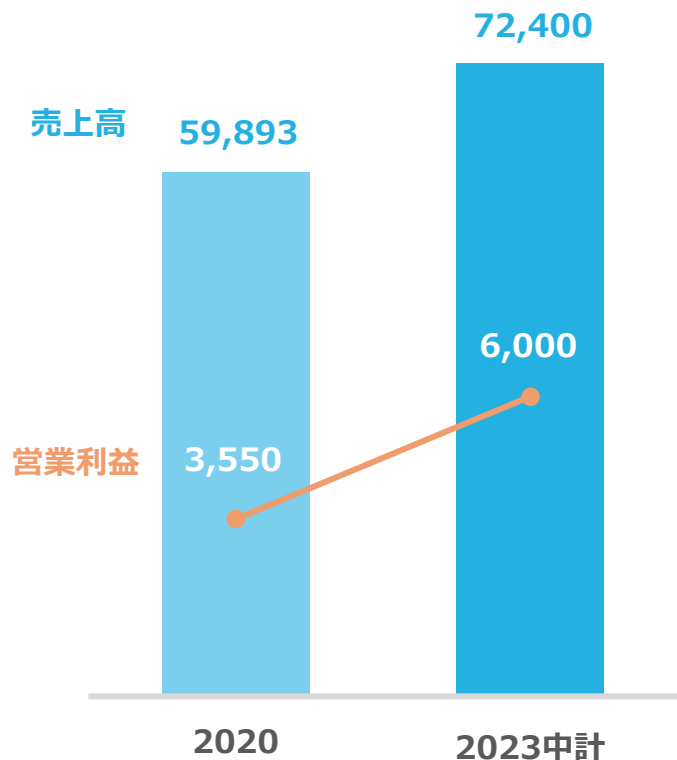
- ゼネコン向け：ミラフォームラムダ拡販
- 戸建向け：壁・天井への部位拡大
- 割付断裁品：大手・中堅ハウスメーカーの新規獲得
- 非住宅物件は厚物を拡販

# ビーズ事業

2020年度比

売上 **21%増**

利益 **69%増**



## 自動車資材



### 「ピーブロック (英名ARPRO) 」

- 省エネ要求に対応した次世代製品の供給
- 自動化、リサイクルを推進

## 包装緩衝材



### 「エレンポールNEO」

- 成型エネルギー大幅削減
- フラットパネルディスプレイ基板の輸送用に拡販

## スポーツ用品緩衝材



### 「スチロダイア」、「クリアポールZERO」、 「ヒートポールGR」など

- 環境対応型等の新たなコンセプトの原料提案を目指します
- 機能性発泡原料、樹脂の開発・販売による収益力向上

## 投資計画

### 2021年度～2023年度計画

- 設備投資計画： 235億円（3年間）
- 減価償却費： 約200億円（3年間）

### 主な投資計画

- 鹿沼事業所 次世代生産体制・物流合理化計画
- 「ピーブロック」の生産能力増強（韓国、台湾、インド）
- 北米 生産工程効率化計画



(ご注意)

本資料の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

お問い合わせ Tel 03-6212-6306 広報IR室